

～「R3 JAなのはな米品質向上運動」実施中～
目指せ!なのはな米1等比率95%以上!

コシヒカリの生育は概ね平年並みで、幼穂形成期(幼穂長2mm)は7月11日頃と推測されます
(5月11日田植えの場合)。
幼穂長や草丈、葉色など稲体の状況を的確に把握し、適切な穂肥施用や水管理により、品質低下
(白未熟粒の発生)を防ぎましょう。

コシヒカリの生育状況

草丈：平年並み 茎数：平年より多い 葉色：概ね平年並み

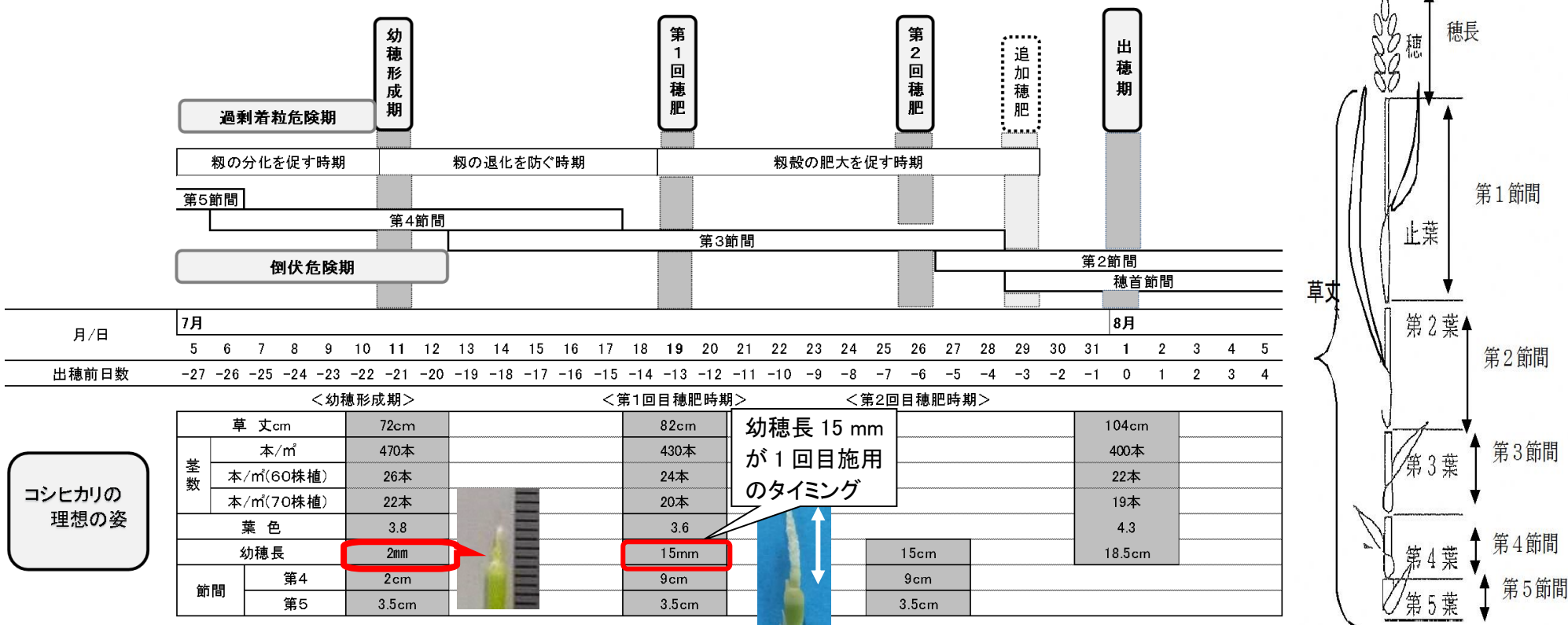
○コシヒカリの生育調査結果

なのはな農協管内コシヒカリ生育基礎ほ(8カ所)7月5日調査平均

	田植日	草丈	株当り茎数	m ² 当り茎数	葉 齢	葉 色	幼穂形成期	出穂期
R3	5月11日	64.1cm	26.8本	526本	11.8	4.1	(7月11日)	(8月1日)
R2	5月11日	67.4cm	23.9本	455本	12.1	4.1	7月10日	8月4日
平年	5月11日	64.9cm	25.1本	472本	11.8	4.0	7月11日	8月1日

※平年 平成23年～令和2年の平均値

○コシヒカリの幼穂形成期頃の稲の姿



1 コシヒカリの穂肥施用

① 肥効調節型基肥肥料を施用している場合

出穂7日～10日前(7月22～25日頃)に必ず葉色を確認しましょう。

この時に葉色が4.0(砂壤土は4.2)以下の場合は、出穂3日前までに「追肥3号」を7kg/10a施用し、登熟期間中の栄養維持を図りましょう。

登熟期間中の活力維持!

② 分施肥栽培の場合

★生育量別穂肥の目安(田植日:5/11、肥料:追肥3号)

	幼穂長15mmの生育状態			1回目穂肥		2回目穂肥		備考
	草丈	葉色	稲の姿	施用時期	施用量(10a)	施用時期	施用量(10a)	
目標	82cm以下	3.6程度	葉がピンと立つ	7月19日頃	10kg	1回目穂肥の7日後	10～13kg (砂壤土13kg)	
やや過剰	82～87cm	3.7～3.9	葉がやや垂れ気味	7月22日頃	7kg以内		10kg	1回目穂肥を3日程度遅らせ、穂肥量も減らす
過剰	87cm以上	4.0以上	葉がメラメラ	施用しない		出穂7日前(7/25頃)	7～10kg	

※最終の穂肥は出穂3日前までに終わしましょう。

2 てんこもりの穂肥施用

幼穂形成期は5月10日頃の田植えで、7月13日頃と予想されます。

① 肥効調節型基肥肥料を施用している場合

幼穂形成期以前に葉色が4.0（砂壤土では4.2）以下の場合は、直ちに「追肥3号」を7kg/10a施用しましょう。

また、出穂7～10日前（7月末～8月初頃）に**必ず葉色を確認**し、このときの葉色が4.2以下の場合は、「追肥3号」を10kg/10a施用しましょう。

② 分施栽培の場合

1回目穂肥は、幼穂長1～2mm 頃に、遅れないように施用しましょう。

○穂肥施用の目安（肥料:「追肥3号」）

穂肥1回目施用時の生育状態			1回目穂肥		2回目穂肥	
幼穂長	茎数（株当り）	葉色	施用時期	施用量	施用時期	施用量
1～2mm	21～25本	4.0～4.2	7月12日頃	10kg/10a	1回目の10日後	12kg/10a

3 今後の水管理

幼穂形成期からは全品種飽水管理を！！

《幼穂形成期から出穂期まで》
～飽水管理で『うわ根』を活性化！～
足跡に水が残る程度になったら入水し、
水不足にならないよう注意しましょう。

《出穂期以降》
～稲体の活力を維持し、登熟を向上！～
出穂期から20日間は**湛水状態**（田面が出ない程度）を保ち、稲体の活力を維持しましょう。



4 病虫害防除

本年も、斑点米カメムシ類が多発しています！確実に防除を行いましょう！！

畦畔の草刈りを徹底し、全品種2回の**基本防除を徹底**しましょう！！

○防除時期の目安（7月5日現在の見込み）

	防除時期 (主な対象病害虫)	薬剤名	散布量 (kg/10a)	てんたかく (7/19 出穂)	コシヒカリ (8/1 出穂)	てんこもり (8/4 出穂)
粉 剤	穂揃期 (いもち病・カメムシ)	ビームキラップジョーカー粉剤 DL	3～4	7/21～23	8/3～5	8/6～8
	傾穂期 ※1回目散布の7日後 (カメムシ)	トレボンスター粉剤 DL	3～4	7/28～30	8/10～12	8/13～15
粒 剤	出穂10日前 (いもち病・カメムシ)	フジワンラップ粒剤	4	7/9 頃	7/22 頃	7/25 頃

※各品種の田植時期:「てんたかく」5/6頃、「コシヒカリ」5/11頃、「てんこもり」5/10頃で推定

《留意事項》

- ・防除の実施にあたっては、必ずほ場の生育（出穂）状況を確認しましょう。
- ・防除の際は、農薬使用基準を正しく守るとともに、農薬飛散防止のため、風のない時に散布しましょう。

○ 粒剤（フジワンラップ粒剤）を効かせるコツ

- ・出穂10日前頃に水深5cm程度の状態で散布し、5日間湛水を保ちます。
- ・稲は、田水に溶けた薬剤を根から吸収するため、湛水が必要です。
- ・薬剤の大半は、散布後3日程度で吸収されます、**少なくとも3日間は浅い湛水**を守りましょう。
なお、田面が露出した場合は静かに必要な分だけ入水（深水は濃度が薄まり逆効果）しましょう。

農作業の際は、適切な水分・塩分補給やこまめな休憩など、熱中症対策を徹底しましょう！